

2023年4月6日

横浜ゴム、三島工場のモータースポーツ用タイヤ生産ラインの使用電力を 再生可能エネルギー由来の電力に切り替え

~モータースポーツのカーボンニュートラルとサーキュラーエコノミー活動を加速~

横浜ゴム(株)は本年 1 月、当社の三島工場のモータースポーツ用タイヤ生産ラインで使用する全ての電力を再生可能エネルギー由来の電力(以下、再エネ電力)に切り替えました。これにより、2023 年は国内外の様々なモータースポーツにおいてカーボンニュートラルに貢献するタイヤを供給していきます。

導入した再工ネ電力は東京電力エナジーパートナー(株)が調達するトラッキング付き FIT 非化石証書 *1 と 再工ネ指定の非 FIT 非化石証書 *2 が付与されたもので、使用電力は実質的に 100%再生可能エネルギー由来かつ CO_2 排出量ゼロとみなされます。

三島工場は横浜ゴムが供給するモータースポーツ用タイヤを生産しており、全日本スーパーフォーミュラ選手権 (日本/以下、スーパーフォーミュラ)や SUPER GT(日本)、ニュルブルクリンク 24 時間レース(ドイツ)、 パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム(米国)など国内外のトップカテゴリーに供給しています。

今回の取り組みは、カーボンニュートラルの達成とモータースポーツの持続可能な進化・発展を目指す活動の一環として実施したものです。横浜ゴムは「2050 年に CO2 排出ネットゼロ」を目標に掲げており、生産拠点のカーボンニュートラル化、再生可能エネルギーの自給・調達や省エネ活動、植樹や生物多様性保全によるネイチャーポジティブなどを推進しています。また、環境活動ではカーボンニュートラルのほかに、サーキュラーエコノミーとして「2050 年にサステナブル原料 100%」を目標としています。

モータースポーツ活動においてもカーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーを目指した様々な取り組みを加速しています。その成果のひとつが今シーズンのスーパーフォーミュラに供給するタイヤです。ドライ用タイヤは従来タイヤと同等のグリップ性能を維持しながら、サステナブル素材比率 33%^{※3} を達成し、さらに今回三島工場に導入した再工ネ電力を使用して生産されています。4 月の開幕戦からドライ用タイヤ、7 月からはウェット用タイヤも供給する予定で、今後もサステナブル比率をさらに向上したタイヤ開発を継続していきます。



三島丁場



100%再生可能エネルギー電力で生産し 今シーズンからスーパーフォーミュラに供給するタイヤ(一例)

横浜ゴムグループは、2021年度から2023年度までの中期経営計画「Yokohama Transformation 2023 (YX2023)」(ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロニーサン)のサステナビリティ経営において「未来への思いやり」をスローガンに掲げ、事業活動を通じた社会課題への貢献を持続的な企業価値向上に繋げていきます。

- ※1 FIT 非化石証書は FIT (固定価格買い取り制度) の適用を受ける太陽光、風力、小水力、バイオマスなどの再生可能エネルギー由来の証書で、トラッキング付き FIT 非化石証書は電源の特定や産地と紐付けされた電源種別などの情報を付与した証書。事業活動のエネルギーを 100%再生 可能エネルギーでまかなうことを目指す国際イニシアチブ「RE100」、持続可能な経済の実現を目指す国際的な環境非営利団体「CDP」、気候関連財務情報開示タスクフォース「TCFD」への報告に活用できる。
- ※2 FIT (固定価格買い取り制度) の適用を受けない再生可能エネルギー由来の証書で大型水力発電などがある。
- ※3 天然ゴム、アブラヤシの実やオレンジの皮から生成したオイルなど各種自然由来の配合剤を活用するとともに、リサイクル鉄や廃タイヤから再生したリサイクルゴム、さらにマスバランス方式の合成ゴムを採用することで原材料全体の約33%をサステナブル素材とした。

このリリースに関するお問い合わせ先

横浜ゴム(株)経営企画部 広報室 担当:山崎、池田

TEL: 0463-63-0414 FAX: 0463-63-0552